

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	中間評価と今後の課題と改善策
<p>1 授業改善を進め、個々の生徒に応じた指導による基礎・基本の定着を図る。</p>	<p>① ICT機器の効果的な活用等により、わかりやすい授業を実施する。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>授業改善に取り組み、授業の内容が理解できる生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である</p>	<p>アンケートでは「授業の目標や学習内容を理解できていると思う」生徒が83%であった。前期は教科指導訪問にともない各教科で研究授業を行ったが、後期は互見授業を行うので、さらなる授業改善を進めたい。また、ICT機器の使用頻度が増加し、使用技術も向上している。それが「分かりやすい授業を心がけていると感じる」生徒93%につながっていると考えられる。 評価B</p>
	<p>② 生徒が学習に集中し、主体的に取り組むようにするため、発言や活動の場を設ける。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>授業に積極的に取り組んでいると思う生徒の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である</p>	<p>アンケートで「授業に意欲的に参加している」生徒が75%であった。「考える時間や発言の機会などがある」生徒が90%とは開きがあった。これは“やらされている感”をもつ生徒がいると考えられるので、興味・関心を高め、生徒自らが考え、発言する授業にする工夫が必要である。また、「試験などには準備し、成績の向上に努めている」生徒が59%であった。試験前の家庭学習や補習の参加を粘り強く指導していく必要がある。 評価C</p>
<p>2 学校生活全般を通して、自己肯定感を高め、社会で必要なルールやマナーの定着を図る。</p>	<p>① 各種教室（非行防止教室、薬物乱用防止教室、防犯教室）の開催により、生徒の規範意識を高め、ルールやマナーを守ることの大切さを意識</p>	<p>生徒指導課</p>	<p>ルールやマナーを守って学校生活を送っている生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である</p>	<p>前期末に実施した生徒向け意識調査では、ルールやマナーを守って学校生活を送っている生徒の割合は35%、ほぼ、守っている生徒の割合は60%で、合計95%の生徒がルールやマナーの大切さを意識して学校生活を送っている。 今後も継続して取り組み、ルールやマナーを守る意識が定着するように務めたい。 評価 A</p>
	<p>② 学校行事や生徒会活動等への参加により、集団の一員としての自覚を持ち、自己肯定感を高める。</p>	<p>生徒指導課</p>	<p>学校行事や生徒会活動等に参加し、自分の役割を果たしたと感じた生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である</p>	<p>前期末に実施した生徒向け意識調査では、自分の役割を果たしたと感じている生徒の割合は35%、ほぼ、自分の役割を果たしたと感じている生徒の割合は40%で、合計75%が集団の一員として自覚を持ち、活動することができた。 自分の役割を果たしていないと感じている生徒の多くは、集団の中で活動することが苦手である。改善策としては、学校生活全体において、自己有用感を高める働きかけを行っていききたい。 評価 B</p>

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	中間評価と今後の課題と改善策
3 キャリア教育を推進し、進路実現のためのロードマップの充実を図る。	① 就業やインターンシップ等の体験を通して、勤労観・職業観を育み、進路選択の能力を高める。	進路指導課	就業していない生徒で、アルバイトやインターンシップに取り組んだ生徒の割合が A 80%以上である B 60%以上である C 40%以上である D 40%未満である	インターンシップは9月時点で1名実施。アルバイトについては、短期間のものを含め、これまでに7名の生徒が行っており、インターンシップと併せて8名（35%）の生徒が就業を体験している。企業見学は1、2年生を対象に行い、参加した生徒の感想は前向きなものが多かった。今後も進路講話や個人面談等を通して、就業に向けての意識を高めたい。その際、個々の生徒の状況に応じたはたらきかけを心がけたい。 評価 D
	② 教育振興会と学校の繋がりを深めるため情報発信に努め、就職・アルバイトの支援を依頼する。	総務課	インターンシップ等を受け入れてもらった会員企業が A 7社以上である B 5社以上である C 3社以上である D 3社未満である	働きながら学校に通う生徒が減少している。そのため、会員企業と学校の繋がりを深めるため、総会の案内に合わせ、事業計画、予算書、学校だより等を同封し、インターンシップの生徒受入を依頼したところ7社から可能との返事をいただいた。今後も継続して支援していただけるよう情報発信に努めると共に、新規会員を増やす取組も進めていきたい。 評価 A
4 食に関する正しい理解と望ましい食生活の定着を図る。	① 給食を通して食の知識やマナーを集団的・個別的に指導する。 ② 保護者への給食体験を実施する。	保健厚生課 各担任	献立や食材に興味関心を持って食事をしている生徒の割合が A 70%以上である B 50%以上である C 30%以上である D 30%未満である	給食時における個別指導と保健だよりや掲示物での情報提供を行った。献立や食材に興味関心を持って食事をしている生徒は59%であり、意識的に好ききらいをしないようにしている生徒が35%いた。 また、今後は食に関する調査の結果をもとに、昨年度に続き管理栄養士による「食育指導」を実施し、更に「食」への関心を高めたい。 評価 B